彩の国
埼玉県

令和２年６月発行　第１７号

埼玉県立 小児医療センターだより

●埼玉県立小児医療センター
〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2
Tel▷048-601-2200（代表）　Fax▷048-601-2201　E-mail▷n581811@pref.saitama.lg.jp
URL▷https://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/index.html

埼玉県マスコット「コバトン」

新病院長あいさつ

病院長　岡（おか）　明（あきら）

令和２年４月より当センターの病院長を拝命しました岡明と申します。私はこれまで30年以上に渡り、小児科医として子どもの身体と心の健康を支える仕事に携わってきました。子どもたちは、みんな高い可能性を持ち、かりに病気と闘いながらも日々育つ存在です。それを支える仕事ができることは、幸せなことだと思っています。

子どもの医療は、子どもと家族に寄り添うFamily-centered Care（子どもと家族を中心とした医療）です。例えば、最近の小児医療の中で重要視されているのは、子どもの権利です。国連の子どもの権利条約では、子どもの「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」が謳われています。小児医療の場でも、子どもの目線に立ち、こうした権利を守ることを目指すようになってきています。例えば医療処置の際のプリパレーション（事前の心の準備の手伝い）やディストラクション（処置の間の精神的サポート）などの考え方も広く取り入れられるようになってきています。もちろん安全で高い品質の医療が最も大事ですが、その過程で子どもに寄り添いながら子どもたちが自分の気持ちを表現できる様な環境作りをすることも、小児医療の質の重要な点となっています。また小児専門施設として、当センターも子どもの気持ちが和む様な飾りつけなど、アメニティ面の配慮も行っております。院内の多職種が力を合わせて診療を受ける子どもと家族の皆様に寄り添う医療を、今後も目指していきたいと思います。

また、子どもの医療にいただく社会からの支援も重要です。当センターにはけやき特別支援学校が併設されていますが、子どもたちは治療を受けながら安心して教育を受けることができます。子どもたちにとって、医療者とは異なる子どものプロフェッショナルである先生方との交流は、育ちを支える非常に大きな支援となります。病気で療養していること自体が、子どもたちの心に与える負荷は計り知れませんが、教育を通じて自信をつけていくことで、将来の土台となる自我の形成につながるものと思います。また、ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンの運営するさいたまハウスが、入院中のご家族の宿泊施設として併設されています。ハウスの運営ではボランティアの方に援助いただいていますし、院内にはそのほかにも外来・病棟に多くのボランティアの方が子どもと家族のために様々なサービスをしていただいています。こうした社会からの支えによって当センターの子どもと家族に寄り添う医療が可能となっていることに、心から感謝申し上げます。

さらには当センターの活動は、病院外の地域医療機関はじめ関係機関の皆様のご指導・ご協力によるものです。御礼申し上げるとともに、今後もFamily-centered Careの精神で健康と保健を支える「最後の砦」としてみなさんの期待に応えられるように努めて参りたいと思いますので、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

埼玉県立小児医療センターだより　第17号　ご案内

○　新病院長あいさつ ……p. 1
○　診療科の紹介 ……p. 2
○　血液・腫瘍科の紹介 ……p. 4
○　検査技術部の紹介 ……p. 5
○　心臓血管外科の紹介 ……p. 6
○　手術室の紹介 ……p. 7
○　お知らせ
　受診の案内・病院へのアクセス ……p. 8

診療科のご紹介

小児医療センターの診療科をご紹介します。

代謝・内分泌科

副病院長
望月　弘

形成外科

副病院長
渡邊　彰二

放射線科

副病院長
小熊　栄二

総合診療科

科長
田中　学

新生児科

科長
清水　正樹

代謝・内分泌科

科長
会津　克哉

消化器・肝臓科

科長
岩間　達

腎臓科

科長
藤永　周一郎

感染免疫・アレルギー科

科長
菅沼　栄介

血液・腫瘍科

科長
康　勝好

遺伝科

科長
大橋　博文

循環器科

科長
星野　健司

神経科

科長
浜野　晋一郎

精神科

科長
舟橋　敬一

小児外科

科長
川嶋　寛

心臓血管外科

科長
野村　耕司

脳神経外科

科長
栗原　淳

整形外科・リハビリテーション科

科長
平良　勝章

形成外科

科長
渡辺　あずさ

泌尿器科

医長
大橋　研介

耳鼻咽喉科

科長
浅沼　聡

眼科

科長
神部　友香

皮膚科

科長
玉城　善史郎

移植外科

センター長
水田　耕一

小児歯科

科長
髙橋　康男

集中治療科

科長
新津　健裕

救急診療科

科長
植田　育也

外傷診療科

医長
宮本　大輔

麻酔科

科長
蔵谷　紀文

放射線科

科長
田波　穣

病理診断科

医長
市村　香代子

臨床研究部

部長
中澤　温子
（病理診断科科長）

今後もご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

科長　康（こう）　勝好（かつよし）

○診療内容

血液・腫瘍科では、小児期に発生するあらゆる血液疾患、悪性腫瘍の診療をしています。固形腫瘍は手術も含め総合的な治療が必要となります。小児外科・脳神経外科・整形外科・病理診断科・放射線科、他職種のスタッフと連携を取りながら診療にあたっています。がん以外の良性血液疾患についても100万人に１人といったまれな疾患も含めてあらゆる疾患に対して標準治療・最新の治療を行っています。新病院では無菌病棟の設置や集中治療部門の整備により、さらに高いレベルでの診療が可能になりました。

無菌室の様子

○小児がん拠点病院として

当センターは平成25年２月に全国に15ある小児がん拠点病院に指定されました。これまでの小児がんに対する診療実績と特別支援学校の併設による充実した教育支援等が評価されたためです。拠点病院に指定されて以降は広く関東甲信越地域の再発・難治の小児がんの患者さんの受け入れに力を入れています。埼玉県内においても埼玉県小児がん診療連携協議会を設置し、これまで以上に充実した地域連携を図ってきました。このような実績が評価されて、平成30年にも再度拠点病院に指定されました。平成30年度には小児がんセンターを設置し、拠点病院としてのさらなる機能強化と最先端の治療実施のための体制を整備しました。

○臨床研究への取り組み

血液・腫瘍科の重点的な取り組みとして、多施設共同研究への参加があげられます。当センターは日本小児がん研究グループ（JCCG）の臨床研究に、その立案段階から関わり積極的に参加しています。当センターのJCCGの臨床試験への登録数は日本一です。JCCGでは当科のメンバーがALL委員会、脳腫瘍委員会、肝腫瘍委員会、胚細胞性腫瘍委員会の委員として活躍しており、当科は今後もJCCGの中核施設の１つとして小児がんの診療、研究に取り組んでいきます。また臨床研究部が整備され、さらなる研究の推進や最先端の診断・診療が可能になってきました。

○最先端の小児がん医療

血液腫瘍科では最先端のがん医療にも積極的に取り組んでいます。当センターはがんゲノム医療拠点病院である県立がんセンターと連携するがんゲノム医療連携病院に指定されました。ゲノム医療の一部であるがん遺伝子パネル検査は2019年度に保険収載されましたが、当センターは保険収載前から研究レベルで実績を積んできました。連携病院になることで、患者さんはこの先進的な検査を当センターで保険診療として受けることが可能になり、すでに３名の実績があります。今後は他施設からのご依頼も積極的に受け入れていきます。

難治性白血病に対する画期的治療として注目され同じく2019年度に保険収載されたCART療法（キムリア）についても、当センターは日本全体で約10しかない小児の実施施設になりました。このほかにも当センターでは小児血液・腫瘍性疾患に対する新規治療開発のための治験に積極的に取り組んでおり、埼玉県内はもとより日本全体の小児がん医療の進歩にも貢献していきたいと考えています。今後とも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

後列左から 入倉、三谷、井上、平木、高山、本田、渡壁
前列左から 大嶋、森、康、荒川、福岡

最近６年間の診療実績

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
造血器腫瘍	58	56	54	47	53	55
（内ALL）	28	23	25	18	23	25
固形腫瘍	32	36	29	40	36	34
造血細胞移植実施数	25	44	24	27	20	25

＜スタッフ＞科長兼部長：康勝好、副部長：荒川ゆうき、医長：森麻希子、福岡講平、大嶋宏一、三谷友一、
レジデント：井上恭兵、平木崇正、入倉朋也、渡壁麻衣、本田護

副部長　伊村（いむら）　浩良（ひろよし）

当院検査技術部は心電図・超音波など身体を直接調べる生理検査、体から取り出した試料について調べる検体検査（尿一般検査、血液検査、生化学・免疫検査、細菌検査、遺伝検査、輸血検査）、組織や細胞から病気の確定診断を行う病理検査、先天性代謝異常等の病気をみつけるためのマス・スクリーニング検査で構成されています。

臨床検査は日々目覚ましい勢いで進歩を遂げ、最新の技術と質の高い検査が求められています。検査技術部では、患者様の診断や治療に貢献できるよう『正確な結果を迅速に伝えられるように』24時間体制で努力しております。

生理検査：生理検査では循環器系検査（心電図、トレッドミル、ホルター心電図など）、脳波・誘発電位検査（ABR、筋電図など）、超音波検査（心臓、膀胱）及び呼吸機能検査等を実施しています。乳幼児では眠剤を使用し、眠ってから実施している場合もありますが、検査時にDVDや音楽などを用いて不安や恐怖心を軽減できるよう工夫しています。また、病棟での睡眠時無呼吸検査、手術室での術中モニタリングなど病棟や手術室でのチーム医療でも活躍しています。

トレッドミル

フローサイトメーター

検体検査：血液・一般検査、生化・免疫検査では一般的な項目に加え、小児疾患特有の検査（血小板凝集能、血液凝固因子・インヒビター、アミノ酸分析、NBT還元能検査、化学発光を用いた顆粒球機能検査、汗中クロライド、尿中メコニウムインデックス等）を実施しています。新生児などの微量検体で測定することが多いため、機器の保守や精度管理に細心の注意を払い、精度保障された検査結果を迅速に提供することに努めています。検体検査の精度保障の取り組みとして、日本臨床衛生検査技師会推奨の「精度保証施設認定書」を2016年に取得し、現在も継続しています。

輸血検査は、安全に輸血製剤を使用できるように自動輸血検査装置を導入、血液製剤の保存温度管理及び危機管理を厳密に行っています。

細菌検査は一般細菌の同定・感受性の他、迅速ウイルス抗原検査等を実施しています。更に肝臓移植後、造血幹細胞移植後の日和見感染ウイルスPCR検査も実施しています。迅速な感染源の特定と院内感染の拡大防止に貢献できる体制の確立に努めています。

細菌質量分析装置

遺伝検査は、遺伝科と連携のもと、様々な遺伝学的検査（染色体、FISH、マイクロアレイ、MLPA等）を用いた遺伝性疾患の精密診断、更に細胞・DNAバンクの運用を含めた、院内の遺伝学的解析の包括的情報管理センターの機能を担っています。

病理検査：病理医と臨床検査技師との連携により、組織診断、細胞診断、病理解剖、研究支援業務に取り組んでいます。急速に発展しているがんゲノム医療にも密接にかかわっています。

マス・スクリーニング検査：タンデムマス２機を導入し、新生児（乳児）を対象に19疾患の先天代謝異常症のスクリーニングを実施しています。内分泌異常、アミノ酸代謝異常、有機酸代謝異常などの報告をしています。

タンデムマス

当院検査技術部は、臨床検査を通じて得た知識、情報、技術、などを診療の場に提供し、診療支援、検査情報の発信、他部門と連携したチーム医療を目指しています。昨年度国際標準検査規格ISO15189の認定を受け、検査結果の国際的な信頼性の評価を得ました。検査技術部は、さらなる正確で迅速な検査結果を提供し、診療各科や患者様に信頼される検査技術部でありたいと考えております。

科長　野村（のむら）　耕司（こうじ）

当センター心臓血管外科は、1983年開院当初から全ての先天性心疾患、不整脈、心血管外傷に対する外科治療を行ってきました。2016年12月のさいたま新都心移転以来、隣接するさいたま赤十字病院と連携した周産期治療に力を入れ、また成人期に入ったキャリーオーバーの先天性心疾患患者さまに対する外科治療を継続して行っており、胎児期・新生児から成人期に至るまでシームレスな外科診療を実践しております。

当科は５人体制（心臓血管外科専門医２名、同専攻医２名、心臓麻酔専門医１名）で診療しており、恒常的に週３～５例の心臓手術を行っております。また急性循環・呼吸不全の子供達に対する経皮的心肺補助（ECMO）導入も24時間体制で担当しております。

先天性心疾患は形態・機能いずれも多種多様を極め、同じ疾患群でも重症度は大きく異なり、体重や手術時期によって術式も変わります。このような背景で手術の安全性を高め、成績を向上させるために開設来36年間一貫してチーム連携強化に重点を置いてきました。周産期診療が始まり総肺静脈還流異常症＋左心低形成症候群、無脾症候群＋主要体肺動脈側副結構など、これまで単独でも重症と位置付けされた新生児心疾患を複数合併する重症例の手術を経験するようになりました。2019年はこれらの重症例を含む257件の手術を行い手術死亡１という結果でしたが今後、全ての子供達を救命すべく更なる安全性向上を目指してチーム一丸となって取り組んでおります。

2018年には年間手術件数が開院以来初めて200例を超え、直近５年の心臓手術件数は増加しております（図１）。移転から３年が経過し、胎児診断による心臓手術件数も年々増加傾向にあります（図２）。

成人先天性症例に対する心臓手術は、さいたま赤十字病院手術室に当科外科医が出向し成人心臓外科チームと合同で行っております。これまで年間２件程度でしたが2020年は５件が予定され、ファロー四徴症に対する肺動脈弁置換、完全大血管転位症術後の肺動脈形成、小児期人工弁置換後の再弁置換など、先天性心臓手術の救命率向上とともに成人症例は今後増加の一途を辿ると予想されます。カテーテル治療を含めた成人心臓チームとともに、年齢を問わず全ての先天性心疾患を持つ患者さまへ良質なQOLを永続的に提供して参ります。

県内の医師会の先生方、コメディカルの皆さま、関係各位の皆さまには、これからも引き続きご指導ご支援を宜しくお願い致します。

図１．手術件数

図２．胎児診断　心臓手術件数

〈心臓血管外科〉

部長	野村　耕司（心臓血管外科専門医）
副部長	濱屋　和泉（心臓血管麻酔専門医）
医長	山本　裕介（心臓血管外科専門医）
医員	村山　史朗
レジデント	磯部　　将

＜看護部紹介＞
手術室

手術室看護師長　野口（のぐち）　京子（きょうこ）

手術室では、小児外科・移植外科・心臓血管外科・整形外科・脳神経外科・形成外科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科・消化器肝臓科・腎臓科・循環器科など、多数の診療科の手術・検査に対応しています。消化管内視鏡検査などは、不安や苦痛を伴いご家族からご心配される声も多く聞かれますが、全身麻酔下で子どもたちが眠っている間に、安全に苦痛なく検査が受けられるようになっています。そして、さいたま新都心への移転を機に、救急部門の新設、総合周産期医療の充実を図り、外傷や新生児手術などの緊急手術が増加しています。新生児期の手術では、主に先天性心疾患や消化器疾患に対する手術を行っています。また、昨年度から隣接するさいたま赤十字病院と連携して、生体肝移植を開始しました。肝臓を提供する大人は、さいたま赤十字病院が担当し、肝臓を移植される子どもは、小児医療センターが担当して密に連携しています。隣接する二施設間での臓器移植医療は国内初であり、新たな医療体制の先駆けと言われています。年々、緊急度や難易度の高い手術が増えており、手術室の看護師には幅広い知識・技術が求められます。日々、医師やコメディカルと協力し合いながら「安全で最善の医療・看護の提供」を基本方針とし、チーム医療の推進に取り組んでいます。

手術室入口

手術室廊下のホスピタルアート

手術室は器械類に囲まれ怖いイメージを抱かれるため、子どもたちの目線に入らないように、ホスピタルアートが描かれています。手術室のホスピタルアートは、「カリヨンの樹」に住んでいる動物たちが、森へピクニックに出かけるイメージになっています。それぞれの手術室は動物たちのお店屋さんがテーマになっており、「くまのお花屋さん」や「うさぎのカフェ」などが描かれています。子どもたちはどんな動物がいるか、どんなお店屋さんがあるかを楽しみにして手術室に入室してきます。手術室の入口から廊下に進むと、木々や鳥など動植物が天井まで描かれ、寝たままでも絵が見えるようになっています。手術室看護師は、手術を受ける子どもたちとご家族に術前に面会し、手術室入室から退室までの流れを紙芝居や写真を用いて説明して、不安の軽減を図っています。動物がピクニックに出かけている楽しそうな雰囲気をのぞかせ、明るく和やかな手術室の様子に、子どもたちが術前から興味を持てるようにしています。また、成長発達に合わせた説明をしており、子どもなりに手術を理解し、自ら手術に向けて頑張る力を引き出す支援をしています。更に、手術室入室時に視聴する音楽やDVDの選択、麻酔導入時のマスクにつける香りを選択してもらっています。子どもたちがマスクを怖がらないように、子どもが好みそうな果物やお菓子の香りをつけています。子ども自身が選択することで自己決定を促し、前向きに手術を受けられるように支援しています。そして、選択した音楽やDVD、麻酔マスクの香りが緊張の軽減にもつながっています。私たち手術室看護師は、手術の経験が子どもたちにとって恐怖体験ではなく、手術への頑張りが成長の糧になるよう看護を提供しています。　ご家族・お子様が安心して手術が受けられるよう、スタッフ一同笑顔でお迎えしています。

部屋の入口　くまのお花屋さん

手術中の様子

お知らせ

たくさんの温かいお気持ちありがとうございます！

新型コロナウイルスの感染防止により医療用物品が不足する状況が続いておりますが、患者さんや一般の方、各団体や企業など大変多くの方々からマスク、手袋、フェースガード等のご寄附をいただきました。また、食品やお菓子のご支援もいただき大変勇気づけられました。

皆様からのご支援に職員一同感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症への対応について

感染の拡大防止、患者様への安全な医療を提供するため、４月13日から５月31日まで外来診療の縮小、緊急性の低い検査入院や手術を延期してまいりました。皆様には大変なご迷惑をおかけしました。

６月以降は引き続き感染対策を行い、段階的に元の診療体制に戻していきます。

医療機関の皆様へ　受診のご案内

①患者ご家族からのご予約

紹介元医療機関 → 紹介状（診療科が明記されているもの）

患者さん予約の電話 →

予約センター
受付時間（9時～17時　土日祝除く）
一般外来
☎048-601-0489
保健発達部門
☎048-601-2165

患者さん来院 →

予約当日にお持ちいただくもの
①保険証
②医師の紹介状
③母子健康手帳
④医療券
（公費負担を受けている方）

②医療機関の先生からのご予約・お問い合わせ

紹介元医療機関

→ **緊急診療（当日診療）の場合** → 電話交換手へ緊急性があることをお伝えください（365日24時間対応可能）

→ 診療科が明確な場合はその「**診療科医師**」へおつなぎしますので、ご相談ください

→ 休日・夜間又は、診療科が不明確な場合は「**救急診療科医師**」へおつなぎしますのでご相談ください

小児医療センター　代表電話
☎048-601-2200

→ ・当日の受診ではないが早期診療が必要な場合
・紹介状の診療科が不明確で相談したい場合
→ 電話交換手へ相談内容をお伝えください
受付時間（9時～17時　土日祝除く）
→ 「**地域連携室**」が対応します
まずは現在の症状が分かる診療情報提供書をFAXで送っていただき、調整の上ご連絡します
FAX番号 048-601-2237

病院へのアクセス

■公共交通機関をご利用の方

- JR京浜東北線、宇都宮線、高崎線「さいたま新都心駅」から徒歩約５分
- JR埼京線「北与野駅」から徒歩約６分

※歩行者用デッキを点線に沿ってお進みください。

■お車をご利用の方

- 駐車場は有料になります。
- 機械式駐車場には車両のサイズの制限があります。

※ご利用の時間帯によっては、車両が集中し、入庫まで大変お時間がかかることが予想されます。できるだけ、公共交通機関のご利用をお願いいたします。

小児医療センターだより第17号
令和２年６月発行
編集・発行　埼玉県立小児医療センター
地域連携・相談支援センター